

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針として、職員みんなが見えるところに掲示してある。会議などで意見を出し合い、実践につなげている。	理念、スローガンは玄関と事務所に掲示して共有と実践に繋げている。また、職員は年1回の目標設定時にチャレンジシートに運営方針を手書きして確認している。職員は利用者との関係作りを心掛け、支援に取り組んでいる。家族には利用契約時に理念に沿った取り組みを説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二か月に一度「おたっしやカフェ」というサロンを開催し、地域の方との交流を図っている。	開設以来法人として町会費を納め、管理者が区の総会に出席して地域の一員として活動している。中止していた「おたっしやカフェ」を今年度より再開した。地域の皆さんが多数参加され、地域の交流の場として好評を得ている。合わせて9月の「サルビア祭り」には利用者、ご家族、地域住民の方が多数来場し、ボランティアの出し物や出店等を楽しんだ。また、春にエクセラシオ高校の生徒が来訪して、ホームの畑に沢山の花の苗を植えていただいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おたっしやカフェにて認知症ケアサポーターフォローアップ研修を行った。 チームオレンジ宣言をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は集合形式で開催している。避難訓練では地域の方に声を掛け、来れる方には来ていただき、意見を出してもらっている。	書面で開催していた運営推進会議は新型コロナウイルスの5類への移行後は、地域住民代表2名、利用者代表、利用者家族代表1名、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が出席して奇数月に開催している。利用者状況、事故ヒヤリハット報告、活動計画、活動報告、意見交換等を行うとともに避難訓練への協力も要請している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点等は高齢福祉課に問い合わせるようにしている。地域包括支援センターの職員には、運営推進会議に参加してもらえるように依頼し、参加してもらっている。	市高齢福祉課には事故ヒヤリハット報告等を速やかに行っている。介護認定更新調査は市の調査員が来訪し、ケアマネージャーが対応している。市の介護相談員の来訪も再開され次第、活用したい意向を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人員不足時や入居者の入れ替わりの時など、落ち着かない時は玄関の施錠をしてしまっている。	身体拘束をしない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。帰宅願望の強い利用者が数名いるが、職員が付き添って散歩したり、話をお聞きて納得して頂いている。年2回、併設の特別養護老人ホームと合同で権利擁護、虐待防止の研修会を行っている。合わせて2～3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開いて、拘束に対する意識を高めて日々の支援に取り組んでいる。	

グループホームサルビア

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で意識して努めている。言葉使いで気になる時は個別に話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については勉強不足であり、学ぶ機会が持てていない。 権利擁護については施設内の研修にて行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書、重要事項説明書の読み合わせを行っている。質問にもその場で答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見を求めている。日常的なことについては電話にて受け付けている。	家族の面会は、現在、居室に於いて自由に行って頂いている。そうした中、ホームでの様子は、年2回発行される「グループホーム新聞」でお知らせし、利用者個々の様子はケアマネジャーより身体状況中心にきめ細かく手紙で知らせている。また、全家族に運営推進会議の開催を案内しており、ご家族数名が出席して、ご意見を頂いている。また、毎年9月に開催される「サルビア祭り」に多くの家族がお見えになり利用者と共に楽しまれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて意見や提案を聞いている。また、個別に行ってきたことに関しては、本部や施設長につなげるようにしている。	月1回の職員会議では、職員より事前に提案された議題についての話し合い、各委員会からの連絡、法人からの連絡事項、各種勉強会、意見交換等を行っている。法人として人事考課制度があり、自己評価を行い、その後リーダーとの面談を経て、最終的に管理者がチェックをして施設長や本部に繋げている。また、年1回職員対象にストレスチェックが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業に関することで何かあれば相談してもらっている。そのことは管理者で止めるのではなく、上にも話を持っていき、施設長や本部と直接話し合いの場が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修はコロナの落ち着きと共に少しずつ参加している。各職員が新しい職員に対して教えたり、相談したりしながら行っている。内部の研修は参加できる職員が参加している状態である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員同士の交流は行えていないが、管理者は他の事業者との交流はある。 今後、他のグループホームとの交流を図っていく必要が考えられる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者様についての情報は記録に残し、職員間で共有できるようにしている。 必要な時には職員で話し合いを行い、安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や事前の申込みの際に、直接話しながら聞き出せるように努めている。入居してからは職員も、ご家族の声を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との関わりや日々の暮らしの中で困りごとを考え、支援についての検討を行っている。ご家族とは相談しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には洗濯物を畳んでいただいたり、食器等の洗い物をお願いしている。 ご入居者の中には自分の役割として行っている方もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室での面会を行ってもらっている。体調不良時などはご家族に連絡し、受診などの対応を行っている。 面会に来られないご家族には書面にて近況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とは会える機会が少ない。面会の希望があった時は会えるようにしている。 入居者様によっては、馴染みの美容室に家族対応でずっと通われている。	友人、知人等の面会は少なくなっているが、希望があれば対応している。そうした中、家族と家に戻って、昼食を楽しまれている方や昔から馴染みの美容院に出掛けている方もいる。また、日用品等は、家族に連絡して職員が買い物してお渡ししている。訪問美容師が2～3ヶ月に1回来訪してカットを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格などを踏まえながら考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や転居された方に、必要があれば連絡を取っている。 特養に転居された方については会いに行ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の声を記録に残しながら、本人の意向を把握するようにしている。また、行動から困りごとなどを推測し考えるように努めている。本人主体の暮らしができるように努めている。	意思疎通が難しい利用者もいるが、行動、表情、仕草より希望を受け止めている。殆どの利用者とはご自分の意向を伝えられる状況にあり、飲み物、入浴後の洋服選び等を二者択一の提案も含めて、利用者の意向に沿った支援に繋げている。そうした中、気付いた事柄にはパソコンのケア記録に纏めて、職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際にこれまでの生活歴などをわかる範囲で記入してもらい、職員で回覧し把握に努めている。本人から聞いたことも記録に残すように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりの中で気付いたことを記録に残し、情報共有している。その方の出来ることを探すようにも努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。	職員は1～2名の利用者を担当し、24時間シートの作成、居室管理等を担当している。担当職員が行ったモニタリングの内容を基に、カンファレンスで意見を出し合っており、ご家族の希望も加味しながらケアマネージャーがケアプランを作成している。入所時は家族からお聞きした情報も参考に、短期目標3ヶ月のプラン作成している。状態が安定している場合は長期目標6ヶ月～1年で見直ししている。状態に変化が見られる時には適宜見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1ケア1記録に努め、日々の様子や本人の状態などを記録に残し、情報共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ないとは決めつけずに、できそうな事柄については一度行ってみて、検討するように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以降、地域と途絶えてしまった繋がりがあり、再開することも難しくなっている。地域の行事も回覧板で回ってくるため、参加の機会を考えていく必要がある。			

グループホームサルビア

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの主治医に変更するかはご家族と相談して決めている。 受診先もご家族の希望であればそちらへの受診としている。	利用契約時に医療機関について希望をお聞きし、ホームとしての取り組みを説明している。ホームでは医療体制の充実に力を入れ取り組んでいる。内科協力医の4週間に1回の往診及び訪問看護師の毎週1回の来訪により健康管理に合わせ医師との連携が図られている。また、精神科医の2週間に1回の往診、理学療法士の月1回の来訪があり、利用者の体調管理に当たっている。歯科医及び歯科衛生士が月2回来訪して定期的な診察を行うとともに口腔ケアの指導もして頂き、口の健康維持にも取り組んでいる。更に、月1回松本市立病院と医療連携会議を行っており、緊急時に備えて万全な医療体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調で気になる点などがあつたら看護師の訪問時に確認している。急を要することは都度連絡し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には病院のソーシャルワーカーと連絡を取っている。病院にも行けるようであれば、面会に行き、状態を確認している。また、一つの病院とは毎月連携会議を開き、その病院に入院した際には直接病棟の看護師との話をする機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応と終末期の指針を示し、同意を得ている。重度化した場合など相談する機会を持ってもらえるように説明している。	重度化した際の指針が有り、利用契約時に説明して同意書を頂いている。状態が変化し介護度が5になった時には家族と相談して併設の特別養護老人ホームへの住み替えも含め提案している。その上で、ホームで最期の時を迎えたいと言う家族の希望がある場合は、主治医を訪問して話し合いの場を設けて、医師の指示の下、医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に若干名の看取りを行った。家族には自由に面会して頂いて、最期の時を共に過ごされた。また、看取り後には振り返りの時を設けて、次回に繋げる様にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、主治医や訪問看護師に連絡し、指示をもらうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っている。(内1回は水害対策の垂直避難訓練)地域の方にも訓練に参加してもらい、意見を出していただいている。	年2回、地域の方にも参加して頂いて、併設の特別養護老人ホームと合同で防災訓練を実施している。6月には夜間火災を想定した避難訓練を行い、夜勤職員の行動確認、緊急連絡網を用いた通報訓練、水消火器を使つての初期消火訓練を行った。10月には日中の水害を想定した避難訓練を行い、併設の特別養護老人ホームの2階への垂直避難訓練を実施した。「水」「お米」「レトルト食品」等を備蓄している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症とひとくくりにするのではなく、一人の人として考えるようにしている。	利用者の想いを尊重した支援を心掛けている。言葉遣いには特に気を配り、「優しく、柔らかい」声掛けを心掛けている。また、トイレ介助の際にはドアは必ず閉めて、周りに分からない様にお誘いしている。そうした中、年2回併設の特別養護老人ホームと合同で権利擁護の研修会を行い、プライバシー保護についての理解を深めて、日々の支援に取り組んでいる。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定につながるように意識し、普段から本人が思いを伝えられるように努めている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やその時の気分なども含めて考えている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に聞きながら行っているが、職員が主体で考える事が多い。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る時や、おやつを作る時は出来るようなことをお願いして、調理の準備を行ってもらっている時もある。	一部介助の利用者が若干名いるが、他の利用者はご自分で食事が取れる状況である。昼食は併設特別養護老人ホームの厨房で調理した物を提供し、朝食、夕食はホームの冷蔵庫の食材を確認しながら調理している。また、時には、お弁当のチラシを見てお好きな物をテイクアウトして楽しんでいる。更に、ホットプレートを使って「ホットケーキ」等の手作りおやつも味わっている。年末には、併設の特別養護老人ホームでの「餅つき大会」の「お餅」も味わっている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録して情報共有している。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診で診てもらいながら指導していただいている。歯磨きは自分で出来る人には行ってもらっている。			

グループホームサルビア

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を残し情報を共有して、間隔や時間の見直しを会議でも議題として話し合いながら、個々の状態に合わせて検討している。	排泄は全部介助の方が若干名、他の方は一部介助の状況である。職員は個々のパターンを承知しているが、排泄表も参考にしながら、起床時、食事の前後等の定時の声掛けのほか、利用者の様子を見て早めに声掛けを行っている。また、麦茶、緑茶、コーヒー、スポーツドリンク等で1日1,000ccの水分摂取による排便促進に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行ける時には施設内の散歩や、食事の時にオリゴ糖や特定保健用食品を用いている。ヨーグルトも毎日召し上がってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の指定などはせずに2～3日間隔で声を掛け、入浴してもらっている。	全利用者何らかの介助が必要な状況で1対1の入浴介助を行っている。基本的には週2回入浴を行い皮膚にかゆみのある方は週3回入浴を行っている。入浴拒否をされる方もいるが、誘い方に工夫をして入浴して頂いている。入浴後にはスポーツドリンクを飲み水分摂取に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの生活ではなかった方には、床での対応も行っている。外に出て陽の光を浴びてもらい、昼夜のメリハリが出るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については医師に状態を報告、相談しながら処方してもらっている。状態に変化など見られた時は、医師や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日にはベランダでお茶を楽しんだり、体操をしたりしている。何かできることがあればやりたいという方には役割をお願いしている。 洗濯物量は自分の役割として生活している方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出て季節を感じてもらうように努めている。外出については行えていない。	外出時は自力歩行及び歩行器使用が若干名、手引き及び車いす使用が数名の状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、ベランダで外気浴を楽しんでいる。また、春には施設の周りでお花見を楽しんでいる。コロナ禍で外出が出来ていない状況が続いているが、感染防止対策を取った上で、ドライブを兼ねた外出を再開したい意向がある。	

グループホームサルビア

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はグループホームで行っている。個人で欲しい物があれば預かっているお金の中から買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があった時に話をしてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって不快になったりしないように努めている。日差しがまぶしい時にはカーテンを閉めて対応している。	玄関を入ると季節の花々と利用者の写真が迎えてくれる。一日の大半を過ごすホールは十分な広さが確保されており、天井も高く開放感が漂っている。窓は大きく明るい陽ざしが差し込み外に出ると外気浴を楽しむベランダが設けられている。また、畑もあり夏野菜の栽培と春に来訪した高校生に数多く花の苗を植えて頂いており、利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを3か所に分け、テレビ前にはソファを置き、気の合った者同士で過ごせるようにしている。玄関フロアには椅子が置いてあり、一人になりたい時はそちらに行かれる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に、馴染みの家具があれば持ち込んでもらうようにしている。また、入居してから家族に相談して用意してもらっている。	居室は十分な広さが確保されている。持ち込み物は自由で家族と相談の上で、使い慣れたタンス等が持ち込まれる。家族の写真等に囲まれて自由な生活を送っている様子が窺える。エアコンと床暖房が完備されており、快適な生活が送れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの看板が入居者様にとって高い位置にあり見えていない。また、「便所」という言葉の認識が薄いため、トイレのドアノブの横に「トイレ」と書いて貼ってある。		